

# 血清肝炎による汚染器材の取り扱いについて

中央材料部 発表者 平林勝江  
伊藤和子 太田き志子

## はじめに

血清肝炎について、感染予防消毒薬についての研究がさかんに行なわれている。これら感染症による汚染器材を取り扱い関係から、消毒薬について、又、ディスポーザブル製品の採用にあたって、常に関心をもって来た。

内科病棟において劇症肝炎発生、交換輸血等のため、多くの器材を必要とし、その取り扱いに検討を加えた事例を報告し、対策について述べてみたい。

## 1. 事例の紹介

○昭和51年5月 内科医師より「HB抗原陽性患者が発生したのでよろしく願いたい」と電話連絡があった。

○看護助手より「HB抗原陽性患者の状態が悪く交換輸血を行なうので、静脈切開トレイとゴム手袋を貸してほしい。」と請求あり。続いて静脈切開トレイ2個の追加あり貸し出す。

○病棟看護婦より器材の返品にあたり、消毒の濃度と浸漬時間について相談あり。

○翌日、看護助手より消毒済静脈切開トレイ3個分返品される。

・メス4本、高度腐蝕にて使用不能。

・持針器1本、中等度腐蝕なるも、肝心のバネがサビつき借用不能。

・ピンセット4本、軽度腐蝕にて磨工室へ修理依頼使用可能。

○再度交換輸血のため静脈切開トレイを貸し出す。メスは、ディスポーザブル製品にかえる。

○創口トレイは毎日貸し出し、消毒後返品される。

## 2. 指導の実際

### 1) 貸出時看護助手に対して

① 使用済器材を取り扱う時は、プラスチック手袋又は、炊事用手袋を用いて行う。

② 消毒は、強次亜塩素酸液(1%)に60分浸けた後返品する。

③ リネン類は、消毒後丈夫なビニール袋に入れ洗濯室へ持って行く。危険のむね明確に伝え、注意して扱ってもらう。

④ 汚染ガーゼ、ディスポーザブル製品はビニール袋へ直接入れ、廃棄物回収業者に危険のむね明確に伝え、焼却してもらう。

### 2) 病棟看護婦との話し合い

① 消毒薬の強次亜塩素酸液は必要量が用意された。

強次亜塩素酸液(1%)に60分浸ける。感染を防ぐため時間は守ってほしい。

## 3. 対策

### 1) 実際の指導について

劇症肝炎患者への治療にあたり、消毒業務が増した病棟の忙しさが推察され、よりの確な指導が望まれる。

- ① 病棟において、トレイ類の請求は最低必要量とし、介助中は、清潔、不潔と区別して扱い、汚染の拡大がおこらないようにする。
- ② 消毒薬は、現段階では、強次亜塩素酸液（1%）又は、0.5%イルガサン含存70%アルコール液を被消毒物品に応じ使いわけていく。
- ③ 器具の腐蝕については、予測どりの結果であったが、効果について信頼性のある消毒薬は他になく。反省として浸漬時間の指導にあいまいさがあった。
- ④ リネン類については、消毒後病棟で丈夫なビニール袋に入れ、直接洗濯室へ持って行き、注意して扱ってもらう。
- ⑤ 綿球、ガーゼ等、血液や分泌物（唾液、胃液、その他分泌液排泄物で汚染された物品は、丈夫なビニール袋に入れ焼却処理してもらう。
- ⑥ ディスポーザブル製品、エラストマー針、静脈留置針、輸血セット、バルンカテーテル、胃管カテーテル、吸引カテーテル。その他、輸血ルート、瀉血ルートに使用したすべての物品。特に針類は附属のキャップをしてから、丈夫なビニール袋に入れ焼却処理してもらう。
- ⑦ 汚染器材、再生不能物品の後始末は、環境を汚染しないよう厳重に注意して扱う。

## 2) 中材部における汚染器材の取り扱い。

- ① 再生物品について、使用後直ちに返品とするか、一次手段（消毒）を講じた後に返品とするかについて検討する。

○汚染器材の院内持ち歩きは、環境汚染につながる危険が大きい。

○中材各室の汚染、特に滅菌室の汚染が考えられる。

○直接オートクレーブ滅菌をした場合、血液、蛋白質の凝固作用がおこり使用不能となる。

- ② 返品後は、図1のごとく直ちにオートクレーブ滅菌（132℃・20分）とし、その後洗浄作業に移る。

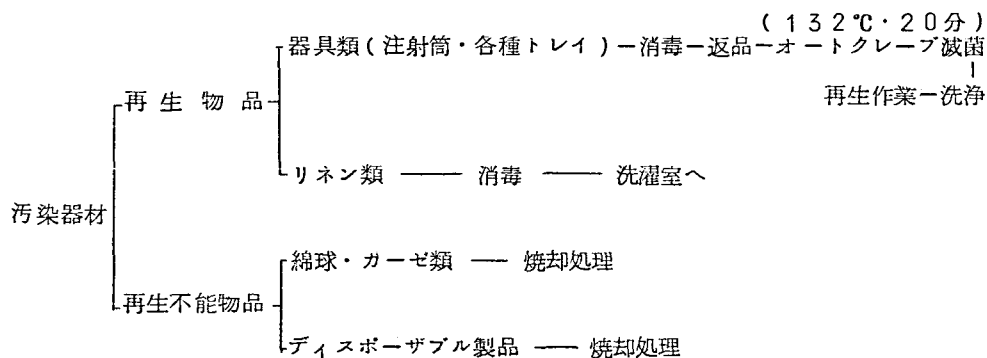


図1 汚染器材の流れ

### ③ 取り扱い上の注意事項

- 器材の洗浄は、従来どおり炊事用手袋を用いて行う。
- 手洗いは、流水と石鹸で十分行う。
- 手洗い消毒液は、1%オスパン液を午前・午後の二回交換する。(タオルは午前・午後の二回オートクレーブ滅菌を行う。)
- 手指の傷には十分注意する。
- 必要に応じ、マスク、予防衣を着用する。
- 過労をさけ、健康に留意する。

### 4. 考 察

- 1) 感染の機会が多い交換輸血では、看護婦は、注意事項を忠実に守り、自己を守ると共に、一般患者をはじめ、二次的に汚染器材を扱う機会の多い、看護助手、洗濯室の従業員、廃棄物回収業者等への配慮と指導が必要である。
- 2) 劇症肝炎の連絡にはじまり、病棟、中材間の連絡が密であったため、器材の取り扱いの予防の面より、安全、確実に出来たのではないかと考える。  
血清肝炎患者の実態の把握の必要性を痛感する。
- 3) 消毒薬については、(1) 光と熱に弱い (2) 金属を腐蝕する (3) 臭気が強い  
(4) 皮膚がある (5) 水に難溶性である (6) 高価なため大量使用がむづかしい等問題はあがるが、効果の点で、より信頼度の高い消毒薬を、正しい方法で使用していかなければならない。
- 4) ディスポーザブル製品については、従来から患者に直接使用の針、カテーテル類はもちろん、血液や分泌物で汚染される。手術衣、シーツ、包布類を常備しておく必要を痛感する。

### お わ り に

B型肝炎について再認識し、個人衛生を守り、院内感染防止を真剣に考えなければならない。今後も器材の取り扱いにあたって、改善していきたいと思う。